

夏の美味「黄油蟹」

NPO法人日本香港協会会員 後藤 博史



蟹ミソでいっぱい黄油蟹

縁あって家族共々海外生活（シンガポール：1982～1985年、香港：1994～2005年）をしましたが、どちらでも美味しい食材に出会う事が出来ました。

そんな駐在員生活の中で一番好きなのは、やはり蟹ですね。特に香港では、秋口からの上海蟹、冷たくして頂く花蟹、が有名ですね。しかし、黄油蟹という短期決戦の蟹が有ります。ご存知な方も多いと思いますが、旬は7月頃からの1～2カ月間になります。このように短い期間ですので、レストランに広告が出たと思ったら、いつの間にか終了してしまう蟹です。

この蟹の特徴は蟹ミソにあります。レストランで注文し、蒸しあがってくるのを待っていると、ドーンと皿に載せられた蟹が出て来ます。上海蟹よりは少し大きめ

で、半分に分かれて出てくることもあります。既に甲羅からミソがはみ出ています。甲羅を開けるとミソがタツプりと詰まっています、半分以上がミソで占められています。爪の部分にもミソが入り込んでいることもあります。

初めてこれを見た時は「な、なんじゃ、コリャ！」状態でした。この蟹の名前（黄油蟹）の由来が分かった気がしました。この時期の強い日差しを浴びた蟹ミソが黄色い油になり、溶け出したことによるそうです。身の白さよりも、蟹ミソの黄色が際立っています。この見た目ですら圧倒されますが、身の味は蟹なので他の蟹とそれほど差が有りません。蟹ミソのインパクトが大きく、ねっとりとした蟹ミソを頂くと、何か幸せな気持ちになるのは私だけでしょうか？それ以来、黄油蟹が出てくるのを心待ちにしています。

6月下旬から、街中の街市（市場）では、漸く黄油蟹を見かけるようになりました。また、7月になってから一部のレストランで見かけることが出来ました。まだ小振りですが、相変わらずミソが詰まっています、アルコールが進んでしまいますね。

現在、縁が有り、2年前から再度の香港駐在（単身赴任なので寂しいです）で、毎日深圳に通勤しています。休みの日は香港の街歩き（徘徊？）をして、達人を目指し、日記替わりのFacebookに投稿しています。

皆様もこの時期に香港に来られたら、是非、黄油蟹の旬の味をご堪能下さい。お待ちしております（黄油蟹もそうしております）。

2016年8月発行（禁断断転載）

目次

夏の美味「黄油蟹」	1
「スーパーコネクター都市」香港から日本コンテンツの魅力を発信	2
香港城市大学スタディツアー	3
50周年の香港貿易発展局、4つの新イベント開催	4
連合会・各協会便り	
全 国：CLUB CMMSからご挨拶／「香港フォーラム2016」のご案内	5
東 京：Facebook活用で日本香港協会をもっと身近に／横濱ドラゴンボートレース大会参戦！	6
関 西：昼食セミナー「先が読めない 変動する外国為替と国際金融問題」／香港フォーラムについて	7

中 京：春季行事2題／文化活動テーマ「城」	8
九 州：福岡県駐在員レポート香港～香港における熊本地震による訪日観光への影響と今後の対応	9
北海道：「香港ビジネスセミナー」「香港のつどい2016」を開催	10
宮 城：2016年度通常総会&記念セミナー、懇親会を開催／広東語教室で懇談会を開催	11
沖 縄：香港からの観光客の動向と今後の展望	12
広 島：広島日本香港協会について	13
新 潟：平成28年度通常総会・講演会・懇親会	14
高 知：高知日本香港協会設立	15

「スーパーコネクター都市」香港から日本コンテンツの魅力を発信

日本貿易振興機構（JETRO）サービス産業部クリエイティブ産業課長 増田 智子

「世界が共感する日本」「世界が欲しがる日本」。クールジャパンともいわれる世界の日本好き現象を街のいたるところで体感できる都市の一つが香港だ。日本食やデザイン製品、ファッション等広がりを見せる日本ブームの火付け役となったのがマンガ、アニメ、ゲーム、キャラクター等の日本コンテンツ。香港と日本のコンテンツが結びつくとうなるのか？今年の1月と3月、香港で行われた2つのコンテンツ関連展示会において、日本コンテンツの売り込み・魅力発信に取り組んだ模様をご紹介します。

◆香港国際ライセンスショー

春節前の商戦を控えた1月の香港。ハローキティやちびまる子ちゃん、モンチッチ、くまモン、といった日本を代表するキャラクターがショッピングモールやコンビニエンスストアのキャンペーンイベントを彩る。日本では津々浦々に浸透するキャラクターとのコラボによる販売促進イベントも世界規模で見れば、まだまだ限定的だ。キャラクターブランドライセンス協会（CBLA）によれば、日本企業のキャラクターライセンスビジネスでは現地エージェントに使用許諾を与えた後、現地市場での活用についてエージェントに任せっきりになってしまうケースが多いからだという。

香港はサービス貿易の拠点であり、知的財産権（IP）保護制度も確立している。アジア最大級のライセンス取引専門の展示会「香港国際ライセンスショー」（HKILS）が毎年開催され、世界中から2万人を超えるエージェントや小売業者が集まってIP取引が行われる。CBLAは会員企業に声をかけ、2014年からHKILSにジャパンパビリオンを形成。ライセンス自身が発地エージェントとともに自社IPの活用を提案し、需要を掘り起こす努力を継続してきた。香港で日本のキャラクターが活躍する背景には、もともと日本のコンテンツへの共感力が強いということ以外に、そんな地道な活動も影響しているかもしれない。

2016年1月11日～13日に開催されたHKILS2016では、JETROは初めてジャパンパビリオンに広報ブースを出展し、CBLAと共催で23社から成るパビリオン運営にあたった。香港でも大人気のハローキティを例にと

り、日本のキャラクターIPを活用した先進事例や日本各地にある様々なキャラクター関連施設等を来場者に紹介した。

出展者の中には美術系の専門学校もあり、昨年のHKILSでは卒業生のクリエイターによる作品が香港の有名ショッピングモールの担当者の目に留まり、販売促進イベントに大々的に使用されたという。香港には著名なキャラクター以外にも商機はあるという好例だ。

◆香港フィルマート

アジア最大級の映画・映像マーケットである「香港フィルマート」が2016年3月14日～17日にわたり開催された。今回は20回目の開催を迎え、会場のあちこちに20周年を記念するモチーフが飾られていた。出展者数は37カ国・地域から801社。来場者数は60カ国・地域から7,362名。香港地場、中国大陸、台湾以外にも、韓国、マレーシア、フィリピン、タイ等のアジア諸国・地域や欧米各国からの出展企業やナショナルパビリオンが軒を並べた。

日本からは国・地域別で中国、香港に次ぐ約80社が出展。うちJETROとユニ・ジャパンが共同出展するジャパンブースには過去最多の34社が参加した。様々なジャンルの長編映画やテレビ番組、アニメ作品等の海外販売権を持つ企業が4日間にわたり熱心に商談を繰り返した。香港フィルマートには中国大陸からのバイヤーが多数集まるが、中国市場は映像作品の劇場配給やテレビ放映に関し、厳しい規制が存在する。このため、規制の少ないネット配信の権利や日本でヒットした原作のリメイク権に関する商談が中心となった。

日本の文化やトレンド、地域の魅力に焦点を当てた作品の取り扱いも増加している。日本でも香港でも「猫」は大人気だが、今回初出展したある出展者は、猫が日本各地を散歩するテレビ番組のシリーズを香港およびアジア諸国のバイヤーに売り込み、確かな手ごたえを掴んだという。

カンヌなど世界の主要映像マーケットでは映画作品とテレビ作品を別々のマーケットで扱うことが多い中、香港フィルマートは映画もテレビも同時に扱う。さっぱり



HKILS2016 ジャパンパビリオン・オープニングセレモニー



香港フィルマート20周年

産業振興財団と札幌映像機構が運営する日本の地域連合パビリオン「REGIONS OF JAPAN」には、地方テレビ局を中心に自治体関連機関等を含めた約30社・団体が連携し、日本の地方の魅力をアピールしながら地域密着のコンテンツを紹介していた。2015年には香港から日本を訪れた旅行者が6割も伸びて、訪日旅行者中トップクラスである。格安航空会社を利用したリピーター旅行者が急増していると思われる。外国人に向けた地方発信のコンテンツの上映、配信が増えることで、こうしたインバウンド需要がさらに拡大することが期待される。

◆「スーパーコネクター都市」香港から世界へ

来年2017年には香港が中国に返還されて20年を迎える。中国の市場開放プロセスに合わせ、中国へのゲートウェイ、ショーウィンドウとして重要な機能を果たしてきた香港。香港特別行政区政府の梁振英行政長官は、現在の香港を洋の東西を結び付ける「スーパーコネクター」と位置付けている。その経済地理的位置から歴史的にも世界の結節点となるネットワーク都市であり続けてきた香港。日本コンテンツを世界に向けて発信する場所としてさらにその役割に期待したい。

香港城市大学スタディツアー

NPO法人日本香港協会文化交流副委員長 大庭 忠良

去る5月23日から26日までの4日間、香港の香港城市大学のスタディツアーが行われ、学生28名と教職員2名による企業見学と大学交流が行われました。



リコージャパンでの見学の様子

NPO法人日本香港協会は香港の学生支援の一環として、日本の学生が香港へ、香港の学生が日本へ来日し、文化交流を行うスタディツアーの支援取り組みを始めております。今回は、香港の大学生が日本の大学と企業を知る、という趣旨のスタディツアーに協力し、日本の企業、大学にご支援いただき、大学交流と企業見学を実現しました。

香港城市大学は香港の公立大学で、留学生も多く在籍しています。今回は1年生、2年生を中心とした28名の学生が参加しました。日本が初めてという学生も多く、短い滞在ではありましたが存分に日本を満喫した様子でした。

4日間の滞在のうち、築地市場や浅草などの定番の観光も楽しみつつ、提携校や支援いただいた大学、企業との交流などが行われました。

滞在2日目には立教大学でのキャンパス見学と学生交流が行われました。キャンパス見学のときから立教大学に留学している学生さんなど実に10名以上の方に参加いただき、同年代同士、楽しくキャンパスを案内していただきながら、その後は日本での留学生活についてのディスカッションを繰り返しました。

立教大学見学後、リコージャパンの支援を得て、リコージャパンのショールーム、プリンティングイノベーションセンターを訪問しまし

た。リコーの会社紹介、そしてプリンティングセンターの見学、見学後には新しい広告のあり方について話し合いました。短い見学時間にも関わらず、来日前に事前学習を行っていた学生の

皆さんは、活発な討論を重ね、その後の発表時も、企業の方が驚くような斬新な意見や鋭い質問が多く出ました。

3日目にはアサヒビール神奈川工場を見学、ビールの作られる工程を皆さん熱心に見学し、最後は作りたてのおいしいビールの試飲に舌鼓をうっていました。香港では18歳から飲酒可能なのですが、今回は日本の法律に則り20歳未満の学生の方々にはソフトドリンクで我慢していただきました。本当は飲みたかったようで大変残念がっていました。

短い滞在日数で多くの訪問をこなし、また5月にしては思いのほか暑い日々だったため、皆さん、少しお疲れ気味の様子でしたが、どの見学の際にも無駄話をせず、熱心に見学しながら、ディスカッションでは間違え意見交換をする様子が印象的でした。

これを機に、少しでも日本に関心を持ち、そして愛着を持って、未来を担う若者同士が交流を続けていきっかけになれば幸いです。



立教大学キャンパス見学の様子



香港城市大学より記念品の贈呈



全員での記念写真

50周年の香港貿易発展局、4つの新イベント開催

香港貿易発展局東京事務所 コーポレート・コミュニケーション&マーケティング・マネージャー 米岡 哲志

香港貿易発展局は今から半世紀前の1966年10月1日、香港の中小企業のプロモーションをサポートする準政府機関として設立されました。初期にはドイツで開催される世界最大の玩具・ゲーム見本市『ニュルンベルク国際玩具見本市』の駐車場に香港製の玩具製品を積み込んだコンテナトラックで乗り込み、プロモーションを行ったと伝えられています。そんな香港貿易発展局は現在、年間43本もの国際見本市・国際会議を開催するまでに成長しました。本稿では、2016年度（16年4月～17年3月）に初開催する4つの新イベントをご紹介します。

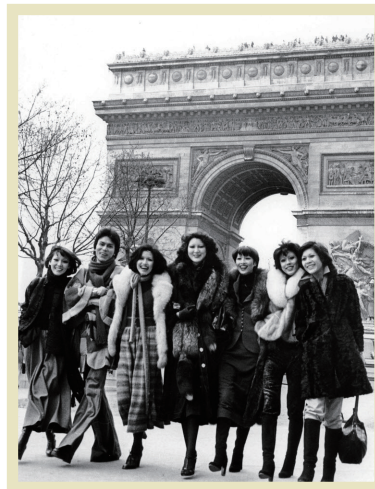
2016年5月18日に初開催した国際会議が『「一带一路」サミット』です。中国政府が2015年3月に公式文書で詳細を明らかにした「一带一路（いったいいちろ）」と呼ばれる巨大経済圏構想について、この経済圏に含まれるアジア、欧州、中東などのビジネスリーダーやオピニオンリーダー約20名が登壇し、現状と展望について共同討議しました。好評につき、既に来年度の第二回開催が計画されています。

続く8月11日から15日には、美容品、化粧品、香水、フィットネス、ヘルスケアなどに関連する製品やサービス提供者の見本市『ビューティー&ウェルネス・エキスポ』を初開催します。本見本市は、一般来場者向けのB2C（企業と一般消費者間の取引）のイベントになります。実は東京・大阪事務所への問い合わせの中で毎年非常に多いのが、「化粧品やヘルスケアの展示会はありませんか」というものでした。その意味で、この分野で有力企業が多い日本にとっては今後、本エキスポが海外販路開拓の絶好の機会になるものと期待しています。

なお、8月11日から13日には、茶葉や茶器の総合見本市『香港インターナショナル・ティー・フェア』、ヘルスケア分野に関連の深い国際会議『現代漢方&ヘルスケア国際会議』も同時開催します。8月11日から15日には、食品の総合見本市で、健康食品も多数出展される『フード・エキスポ』、エレクトロニクス製品の総合見本市で、ビューティー器具やフィットネス器具なども多数出展される『香港家電&日用品展』が同時開催されます。美容や健康に関する海外からの調達・購買（ソーシング）を担当されているバイヤーの皆さまには、是非8月の香

港の展示会をご活用いただきたいと思います。

翌月の9月7日から10日には、アジアを中心にしたファッション・ブランドを世界のバイヤーに売り込む『センターステージ』を初開催します。自身のブランドを持つファッション・デザイナーや、ブランド



パリのショーに参加したモデルたち

のライセンス（被承諾者）が、アパレル品を中心に出版します。香港政府は2015年2月に発表した15年度（15年4月～16年3月）財政予算案に、ファッション・デザイナー支援事業に5億香港ドル（約80億円）を充てる計画を盛り込みました。アジアの流行発信地・香港から今後、どのようなファッション・ブランドが生まれ育ってゆくかが注目されます。

実は香港における繊維、ファッション産業の歴史は古く、パリでのプレタポルテのファッション・ショーへのデビューは1975年のことでした。この時期を起点に香港ファッションのイメージは飛躍的に上昇することになりました。米国の調査会社グローバル・ランゲージ・モニターが発表した「世界ファッション都市ランキング2015」では、香港は東京（10位）に次いでアジアでは2番目の高位となる12位に食い込みました。ちなみに、香港貿易発展局が手掛けている展示会の中で最も歴史が長いのは、2017年1月で48回目を迎える『香港ファッション・ウィーク（秋）』です。

さらに、10月26日～29日には、照明器具の総合見本市『香港インターナショナル・ライティング・フェア（秋）』から派生・独立した屋外照明器具の総合見本市『香港国際アウトドア&テック・ライト・エキスポ』を初開催します。2015年10月に初開催した『ワールド・オブ・アウトドア・ライティング&ライティング・アクセサリーズ』（出展者172社、バイヤー1万1021人）が発展・拡大した見本市で、多数の出展社・バイヤーが見込まれます。秋のライティング・フェアは従来から業界関係者の評価が極めて高く、屋外照明の見本市についても、質の高い商談ができる場となるよう、主催者として尽力する所存です。

香港貿易発展局50周年記念サイト

<http://50.hktdc.com/en/milestones/>



車両側面に「HKTDC」のロゴが入ったコンテナトラック



二松學舎大学文学部教授 牧角 悦子

CLUB CMMS からご挨拶

古田女史のトルネードに巻き込まれたのが数年前、CMMS (Chinese Management & Marketing School)*¹の語学編を何度かお手伝いし、中国の古典を文学・思想・語学など様々にご紹介して参りました。大学ともカルチャーセンターとも違う独特の講座のもつ熱量の余韻を引き継いで、CLUB CMMS*²が立ち上がり、いつの間にか3年目になりました。もともとは、大学の学園祭の際に、CMMSのメンバーの皆さんが私の狭い研究室に遊びにいらして、大学での学びや文学部の内実に興味を持っていただく一方で、何の話題かはまるで記憶にないのですが、何時間も議論が白熱し、そのまま飲み会！という流れになったのが始まりだったような気がします。そんな無秩序な議論も私は好きですが、永続には秩序が必要、ということで、月に一度のペースで、テーマを決めて中国の古典を楽しく読んでいながら、現在の中国を考える研究会が始まった、というわけです。

最初に読んだのは、司馬遷『史記』の「孔子世家」。儒教が国家思想として確立する前の時代を生きた司馬遷の描く孔子像はとても人間的です。皆さんの気に入った場面は、美女の南子に会いに行ったのを弟子の子路に咎められ、焦ってたじろぐ孔子、また魯の国の弱体化をねらった齊の国が、馬と美女を送り付けて政治家を骨抜きにする策略。いつの時代も変わらぬ人間の本性が可笑しいです。儒術が儒家になり儒教に展開する様相もきちんと学びました。

次に読んだのは『詩経・楚辞』。中国古典文学の原点である2つの詩集から、代表的な歌謡を味わいました。先回から読み始めたのは、再び『史記』の、今度は「刺客列伝」。春秋戦国の男たちの命がけの任侠を、一人ずつ読み解いていきます。

この研究会の特徴は、母体がCMMSだったことにあります。参加者の皆さんは私がこれまでに教えたことのない種類の方々なのです。中国の古典は、それが儒教的なものにしても文学的なものにしても、すべて「文」という成熟した大人の価値を重視します。その意味で、例

えば学生に教えても何の反応もなかった部分に、メンバーの皆さんが敏感に反応してくださる。10代20代の若者と、実際に中国という現実を体験



名講義と受講生

した方々とは、実感の質が異なるのです。さらに言えば、学ぶことの意味や志向、古典に対するスタンスというか間のとり方が、これまた質的に違うのです。古典が古典として残ってきたことの意味を、改めて気づかされた、というのが私の正直な思いです。

私の奉職する二松學舎という大学は、三島中洲という漢学者が始めた私塾が原点です。明治の時代に漢学を教えること、それは一見時代に逆行しているように見えて、実際はとても時代のニーズに応えるものでした。それは漢学という中国の古典学そのものが持った現実対応のスキルに因ります。また、二松學舎大学は、文科省から虚学として冷遇されている「文学部」が400人の定員を持つ虚学の雄です。小さな大学なのに文学部が中心、という構造は、実学重視の風潮に逆らっているようにも見えます。しかし文学部で学ぶ虚学こそ学問であるという矜持を我々は持っています。なぜなら成熟した大人の価値は、早熟な実用的価値とは異次元のものだからです。ビジネスと直接的には何も関わらない中国古典の世界に、このCLUB CMMSの皆さんが楽しく熱心に通ってくださることは、その意味で二松學舎の矜持の証明として私の誇りでもあるのです。

*1 CMMS…日本香港協会主催の「華人経営講座」で社会人を対象に2003年から2015年まで東京・大阪・福岡で開催されて合計487人が受講してその内217人が修了した。

*2 Club CMMS…CMMSの修了生を中心にした勉強会：大阪の「中国古典講読会」が東京に先行して開催されている。

牧角悦子／文学博士（専門分野：中国詩史・聞一多研究など）。最近の研究課題：「詩経」「楚辞」を中心にその成立と解釈、及び近代における古代学の成立

「香港フォーラム2016」のご案内

今年で開催第17回目を迎える「香港フォーラム」は、2016年11月29日(火)～11月30日(水)の2日間にわたり、香港のコンベンションセンターにて開催されます。

香港フォーラムは、世界29カ国/地域に跨る40の香港ビジネス協会から構成される香港ビジネス協会世界連盟 (Federation of Hong Kong Business Association Worldwide) の全メンバーが一堂に会する年一回の世界会議です。香港そして香港を通じての中国本土、アジア諸国へのあつい思いを胸に秘めた方々の結集です。また、「香港フォーラム」に先立ちまして、フォーラム前日11月28日(月)には毎年恒例の「全国協会交流会」を開催いたします。香港での年に一度の交流会には、日本全国から毎年100名以上の会員の皆様にご参加をいただいております。ぜひ今年も大勢の会員様のご参加を心よりお待ちしております。

イベントの詳細、フォーラムのご案内 <http://www.hkfederation.org.hk/forum/forum2016/>

問い合わせ先 日本香港協会 全国連合会 TEL 03-5210-5901、FAX 03-5210-5860



たかの ひろこ

Facebook活用で日本香港協会をもっと身近に

NPO法人日本香港協会ではFacebookに記事を掲載しています。ご覧いただいていますでしょうか。これまでもFacebookにアカウントはありましたが、昨年11月からはいままでの活動の案内、報告のほかに、身近に感じていただき“ファンを増やそう”という狙いで香港に関するトピックを含めた記事も掲載するようになりました。現在、私と広報委員の方で執筆・管理をしています。

掲載記事は、①日本香港協会（文化交流、ビジネス交流、広報、パウヒニア会）のイベント、広東語教室など事業の案内、告知と報告、協会の事業、②全国連合会の事業（チャイニーズ・マネジメント&マーケティング・スクール（CMMS）、香港フォーラム）の告知、募集、レポート、③会員（個人・法人）の活動（商品・サービス、イベント、出版など）の告知、報告、④各支部の活動、⑤香港ビジネス情報、⑥香港観光・交通情報、⑦香港文化・芸能・社会情報、⑧HKTD、HKETO、HKSAR、HKTB、日本シンガポール協会など友好団体の告知、⑨香港ファン、香港関連団体の情報、⑩広報委員会および事務局から依頼された事項などとなっています。これらの内容で政治的、また宗教的な主張とされやすいものは避ける、著作権を考慮するというのがルールです。

掲載はJHKS広報委員より提供された情報をもとに記事を作成するほか、会員、香港ファンに興味をもっただけのような香港に関する記事を探し記事を作成、委員会による内容確認を経てアップするという形をとっています。

Facebookを企業、団体が活用するメリットは日常、企業・団体の話題に触れる機会を増やし身近に感じることでファンを増やすことです。当初は香港での日本企業の新規事業や展示会の日程など、ビジネス寄りの記事を

中心にセレクトしていましたが、あるとき「ピンクイルカが絶滅の危機」というニュースをみつけ、個人的にもショックだったのでこれをアップしました。すると通常の10倍のアクセスがありました。また「香港の旧正月にやってはいけないこと」なども多くの方に読んでいただきました。みなさんビジネスで香港とつながるばかりでなく、本当に香港が好きで興味をもっていることがわかり、それからは街に関する記事を探すようにしました。とはいえ、最近の香港では、あいつぐ名店の閉店、景気の悪化、香港ディズニーランドの赤字など暗いニュースが増え、そのまま掲載しては香港にネガティブな印象を抱いてしまう内容が多くなっています。これらはできるだけ視点を変えて明るい記事にするように心がけています。

FacebookはNPO法人日本香港協会のほか、全国連合会、パウヒニア会ではバーベキュー、ドラゴンボートレースなど活発な活動の様子、新潟支部でも活動の報告に活用しています。一度覗いてみてください。このところ東京では香港に行かなければ食べられなかったもの、観られなかったものが登場し、日本にいらながらも香港が感じられるもの、ショップが増えてきました。これからはこれらをもっと掲載していく予定です。会員さまの商品、サービス、イベント、出版などの活動など情報がありましたら、是非事務局にお寄せいただきますようお願いいたします。

たかのひろこ／ライター。80年代に香港映画「男たちの挽歌」を観て、チョウ・ユンファの熱狂的なファンとなり、香港に通い始める。同時に広東語を学習し、休職して香港大学に短期留学をしたことも。「映画で学ぶ広東語」の企画、執筆をきっかけに、映画雑誌などで取材をはじめ。共著「龍在香港」、「香港ポスト」で“いながら香港”のコーナー担当。「君さえいれば」字幕監修など。現在は香港関係のほか、落語に関する本の出版のお手伝いをしている。

文化交流委員会

横濱ドラゴンボートレース大会参戦！

前日から降り続く雨が時折はげしく降る6月5日(日)に第23回横濱ドラゴンボートレース大会が開催されました。こんな大雨で漕ぐのは嫌だなと思うようなお天気でしたが、幸い10時頃には雨も上がり、私たちNPO法人日本香港協会が参戦する時には、陽も差し清々しい空気の中でのレースとなりました。

今回はドラゴンボートレースのキャプテンを富田文化交流委員にお願いし、キャプテンを中心に並び順をきめたり、エア練習を行ったりしました。参加者は30名。日本、香港、中国、ドイツなど出身国も様々でまるで小さな香港といった趣です。残念ながらタイムは2分を越

えてしまい、成績は良いとは言えませんが、チームの盛り上がりや結束度、メンバーの満足度は今までで一番だったように感じます。

大会終了後は中華街で打ち上げです。モツ料理や煲仔飯など、香港の特色あるお料理の数々。昼は香港のスポーツ、夜は香港の食、参加者もまるで香港のように出身地も様々と、一日中香港を堪能できた日でした。これからも日港市民交流の輪が広がるよう、ドラゴンボートレースに参戦しますので、ぜひご参加ください。



レースを終えて和気藹々の参加者



関西日本香港協会理事・事務局長 戒田 真幸

昼食セミナー「先が読めない 変動する外国為替と国際金融問題」

5月25日に大阪で超人気のレストラン“Lawry's The Prime Rib, Osaka”で昼食セミナーを開催し、19名が参加しました。講師は関西日本香港協会理事田岡敬造氏にお願いしました。美味しいカリフォルニアワインとローストビーフをいただきながら会員同士の懇親を深め、同氏に外国為替と国際金融問題について話していただきました。

田岡氏は、大手家電メーカーに勤務後、香港上海銀行、シティバンク、ドイツ銀行、UBSなど外資系銀行で商業銀行業務とプライベートバンキング業務を経験され、現在はKTビジネスコンサルティングの代表をされて大学や高校で教鞭をとっておられ活躍中です。田岡氏は豊富なデータ・資料に基づき(1)外国為替の仕組み、(2)外国為替市場、(3)ドル/円の推移(1ドル360円の固定相場制が終焉した1971年のニクソンショック、1978年のカーターショック、1985年のプラザ合意、1990年代初めの欧州危機、1997年のアジア通貨危機、2008年のリーマンショック、2010年のユーロ危機を経験した過去50年の円高の歴史)、(4)最近5年間のドル/円の推移(アベノミクスとドル/円相場、日銀マイナス金利制度導入後のドル/円相場)、(5)通貨ペア別取引シェア(2013/4、ドル・ユーロ/24%、ドル・円/18%、その他/58%)、(6)通貨別取引シェア(2013/4、ドル/44%、ユーロ/17%、円/12%、ポンド/6%、豪ドル/6%、スイスフラン/3%、その他/13%)、(7)主要各国の政策金利の推移、(8)今後の動きと注意点について丁寧に解説されました。

2013年4月時点の統計資料では、1日あたりの外国為替取引量が実物経済を大きく上回る5兆3000億ドル(約580兆円)に達しており、巨額の投機的マネーゲームで世界経済が翻弄されている現状では、外国為替の先を予測することが困難になっていると説明されました。ゼロ金利が続いている日本で個人の安全な金融資産運用が難しくなっており、ドル預金や外国投資信託などでリスクを取って運用する際には外国為替の基本を理解し「安く買って、高く売る」投資の基本を忘れないこと、ノルマ営業の金融機関の勧誘には慎重に対応したほうがよいとアドバイスされました。参加者から多くの質問が出て有意義なセミナーでした。



昼食セミナーの様子

香港フォーラムについて

2016年度の香港フォーラムが11月29日、30日の日程で開催されることが決まりました。関西日本香港協会では、香港フォーラム参加を最重要イベントに位置づけており、これまで毎年20名以上、2012年には36名と多くの会員が参加してきましたが、2015年の香港フォーラムには中国経済減速による中国ビジネスへの関心低下もあり12名に減少しました。今年は昨年以上の参加者を期待しています。

毎年開催される香港フォーラムでは、香港が目指す発展とビジネス環境の変化に伴いそのメインテーマが変わってきました。「国際金融都市」、「中国ビジネスの拠点」、「金融資産の国際的運用拠点」、「アジアのビジネス拠点～香港からアジアへ～」とその時々時代の背景に応じて香港を世界にアピールするテーマに変えてきており、香港がPR上手なのに感心させられます。

昨年度は、スピーディーに変化するビジネス環境に効率的に対応して事業に成功している若手経営者・IT起業家・女性経営者が主役でした。香港貿易発展局が毎年大規模なフェアや国際イベントを開催して海外から多数のビジネスマンが香港を訪れていますが、ビジネスのスーパー・コネクターとしての香港を世界が求めており、香港をより魅力的な都市“Quality City”にするために、香港政府がビジネス・インフラ、教育、文化などの分野で質の向上に積極的に取り組んでいるのが印象的でした。

国際的ネットワークである香港ビジネス協会世界連盟のメンバーとして香港フォーラムに今年も積極的に参加し、海外の会員との交流を大いに楽しみましょう。香港フォーラムで香港やアジアビジネスの最新情報や国際ビジネスの成功事例を学ぶことが出来、毎年100名以上参加する日本香港協会の会員や300名以上参加する外国の参加者達と友好的に交流することが出来ます。このような大きな国際イベントに参加して国際的な見識を深め外国の人と交流する機会に我々は恵まれています。我々の日本香港協会は国際的なネットワークである香港ビジネス協会世界連盟に所属しており、香港貿易発展局の優秀なスタッフが本部事務局を運営し、盛り沢山のプログラムで香港フォーラムを実施してくれています。特にアジアにおける「華人ネットワーク」に通じる国際ネットワークの一大イベントが香港フォーラムです。今年も皆で行きましょう。



アンソン・チャン氏と関西日本香港協会メンバー



中京日本香港協会事務局長 佐藤 亮一

春季行事2題

◆1

4月26日、27日両日に亘り岐阜、名古屋2か所にて香港貿易発展局大阪事務所長伊東正裕氏による講演が開催された。テーマは「香港を活用した加工食品・食品関連製品の海外展開」で、参考に「香港におけるブランド戦略」といった詳細な資料もあり、両日で200名に及ぶ参加者もメモを取りながらの熱心な聴取がなされた。特に、地場産業たる岐阜、瀬戸といった陶器産業の香港物流における現況など中小企業として興味があったと思われる。もう一点、写真掲載したのは文化活動の一環中京パウヒニア倶楽部による、4月14日名駅新ビルの見学を兼ね、胡永華先生による中国書道の起源、風水など書道の講演があり、24名の参加を得て文化シリーズとして第5回を迎えることができた。



文化シリーズ

◆2

現在、熊本地区地震災害がTV番組ほか報道にて連日我々が目にするところ。一日も早い復興が望まれる。特筆すべきは建築物において熊本城の石垣被害で文化遺産として修復に10年要するといわれる。一方、中京日本香港協会として文化活動の会員サービスの一環として2年前からテーマとして「東海3県の城巡り」を会員に対して発信している。昨年末までに名古屋城、犬山城、大垣城、高山巨大七福神等々歴史遺産に対する文献を含め、実際に目で見るシリーズを取り上げている。

文化活動テーマ「城」

最近、メンバーの旅行社の話だと欧米の来日客は京都、奈良を訪れることが多いが、アジアからは東海地方の城見学ツアーが目立っていると聞く。これは、一昨年から「昇龍道コース」PRの効果か。また、親近感の有る香港、マカオ、マレーシアの旅行者や、中国の団体ツアーにとっては日本列島を縦断するルートのひとつであろう。今後も外国からの来日客の対応時に参考になり、結果としてサービス活動が会員の増強につながるものと期待している。

今年も第2弾の企画として中京地区近郊の城巡りバス

ツアーを呼び掛けている。何となく近世の城のイメージは「戦国ロマンを感じる」という若年層の期待に反して、戦国時代に大小3万5,000カ所あった城が、実に現在は170に減少している。これには3つの大きな要因があった。①1615年家康の発令した一国一城令、②明治政府による廃城令、③1945年第2次世界大戦の空爆による焼失である。そもそも「城」は、歴史の上では戦国時代防衛施設として戦時の世に欠かせない軍事要塞であった。

まず、熊本城（別名銀杏城）は築城も1601年加藤清正（尾張中村の生）。一方名古屋城（別名金鯱城）も熊本城と似ている。どちらも平城だが加藤清正の設計と伝えられている。名古屋城も近郊に祖父江地区があり銀杏の産地。どちらも籠城の際の常備食として共通点を感じる。1610年家康の命令で清正により20万人の夫で築城された。前身の名護野城を大改造、熊本城も名古屋城もどちらも天守台の石垣は「清正の石垣」と呼ばれている。最後に名古屋城の天守に聳える金の鯱は水神火災除けで鎮座。北側がオス、南側メスである。香港、中国など東南アジアからの来名客には雑学であるが説明したいと思う。

日本香港協会全国連合会

〒102-0083 東京都千代田区麹町3-4 トラストイ麹町ビル6階
香港貿易発展局 東京事務所内
電話 (03) 5210-5901 FAX (03) 5210-5860

NPO法人日本香港協会（東京）

〒102-0083 千代田区麹町3-4 トラストイ麹町ビル6階
香港貿易発展局内 電話 (03) 5210-5870

関西日本香港協会

〒541-0052 大阪府中央区安土町2-3-13 大阪国際ビルディング10階
香港貿易発展局内 電話 (06) 4705-7030

中京日本香港協会

〒460-0003 名古屋市中区錦2-11-27 TH錦ビル8階
株式会社喜斎内 電話 (050) 3620-2517

九州日本香港協会

〒812-0011 福岡市博多区博多駅前2丁目9-28 会議所ビル1階
地域企業連合会 九州連携機構内 電話 (092) 451-8610

北海道日本香港協会

〒060-8661 札幌市中央区大通西3-7
北洋銀行国際部内 電話 (011) 261-4288

宮城日本香港協会

〒980-8520 仙台市青葉区一番町3-7-23 明治安田生命仙台一番町ビル3階
(株)JTB東北本社 営業部内 電話 (022) 212-5550

沖縄日本香港協会

〒900-0033 那覇市久米2-2-10
那覇商工会議所内 電話 (098) 868-3758

広島日本香港協会

〒730-0052 広島市中区千田町3-7-47 広島県情報プラザ3階
(公財)ひろしま産業振興機構 国際ビジネス支援センター内
電話 (082) 248-1400

新潟日本香港協会

〒951-8052 新潟市中央区下大川前通四ノ町2186番地
愛宕商事株式会社内 電話 (025) 365-0001

高知日本香港協会

〒780-0822 高知市はりまや町1-7-7 川村ビル4階
株式会社ティーエルホールディングス内 電話 (088) 856-9112

URL <http://www.jhks.gr.jp>

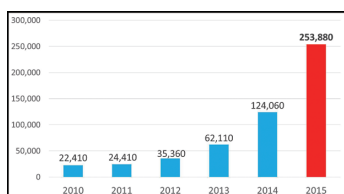


福岡県香港事務所 所長 藤木 重尚

福岡県駐在員レポート 香港～香港における熊本地震による訪日観光への影響と今後の対応

1. 熊本地震に対する香港の反応

日本政府観光局（JNTO）香港事務所が発表した、2015年の福岡県における香港人観光客の延べ宿泊者数は、25万3,800人と過去最高を記録した【図1】。増加の理由としては、リピーターの多い*1香港人観光客が東京、大阪、北海道などの定番観光地から福岡など地方部を回るようになってきたこと、格安航空会社である香港エクスプレスが福岡空港路線を増便したことなどが挙げられる。



【図1】香港人観光客延べ宿泊者数（福岡県）（出典）JNTO香港事務所

同様に、九州各県における香港人観光客延べ宿泊者数も前年と比べて大きく増加してきた【表1】。

	2014年	2015年	伸び率
福岡県	124,060	253,880	104.64%
佐賀県	4,360	7,240	66.06%
長崎県	24,000	37,910	57.96%
熊本県	46,320	91,000	96.46%
大分県	35,710	57,580	61.24%
宮崎県	13,230	43,530	229.03%
鹿児島県	28,660	65,680	129.17%
合計	276,340	556,820	101.50%

【表1】各県別香港人観光客延べ宿泊者数（出典）JNTO香港事務所

そのような状況の中で発生した今回の熊本地震について、訪日観光への影響と現状を報告したい。

まず、地震発生直後の4月16日、香港特別行政区政府は熊本県への旅行者および滞在者に対して、「黄色警報*2（渡航注意勧告）」を发出し、余震をはじめ現地の状況に注意するよう呼びかけた。これを受けて、香港最大手の旅行会社であるEGLツアーズ社が熊本県へのツアーをすべてキャンセル（熊本県以外は継続）するとともに、その他の大手旅行会社も九州を訪問するツアーをすべてキャンセルした。さらには、航空会社も福岡路線の搭乗率に影響が出ている旨を述べるなど、地震発生直後は福岡県の観光にも一定の影響があり、影響軽減のための対応が必要であった。（現在の状況については、本稿3に詳述）。

2. 地震後の当事務所の対応

熊本地震の発生直後、当事務所では九州を旅行中および九州旅行を予定している香港人に向けて、当事務所のFacebookを通じて、様々な情報発信を行った。

最初に、旅行中の香港人に対しては、JRや高速バスをはじめとした公共交通機関の運行状況や高速道路の開通状況などを連日広東語で発信した。香港人観光客は、個人旅行者が圧倒的に多く、交通機関に係る情報に対する関心が極めて高いため、交通機関関連の情報に対して、非常に多くのアクセスがあった。

つづいて、九州旅行を予定している香港人に対しては、福岡県内は平常通りである旨を周知するため、各地の正確な情報を発信し、不安感の払拭に努めた。特に4月下旬は香港人に人気があるフジの季節であり、開花状況を現地の写真を交えて継続的に発信することで、被災地のショッキングな写真ばかり報道される中、香港人観光客に対して大きな安心感を与えることができたように思う。

3. 現在の状況と今後行っていくべきこと

5月31日に発売された香港の著名旅行雑誌【図2】では、北九州市をはじめとした北部九州・山口が地震発生後に取材された内容に基づき取り上げられるなど、地震が本県の観光に与える影響は減少していると思われる。

現在、本県を訪れる団体ツアーは、EGLツアーズ社主催のものに加え、他の旅行会社も順次販売を再開しており、多くは7月から催行される予定である。香港政府が发出した熊本県への黄色警報（渡航注意勧告）も6月3日付で解除されたことから、今後ツアー催行数や参加者も回復していくと見込まれる。

また、個人旅行者の利用が多い香港エクスプレスによると、地震直後にやや落ち込んだ福岡便の利用者は、現在元の水準に戻ってきているとのことであり、団体ツアーに先んじて、個人旅行者が回復してきているとみられる。実際に、筆者が6月上旬に同社便を利用し、空席状況を目視したところ、香港発福岡行（総座席約180席）の空席がわずか2席、福岡発香港行は10席程度であった。

当事務所は、リピーターおよび個人旅行者の多い香港市場に向けて、直接情報を届けることができるFacebookを使った情報発信を強化してきた。今回の地震発生時の対応もその延長であったが、情報に対する香港人観光客の反応と実際の回復傾向をみると、改めてその重要性を認識したものである。

旅行に対する関心が高い香港人は、各地の観光情報に非常に敏感である。当事務所が行ってきた、現地の正確な情報と魅力的なコンテンツの発信に加えて、プレミアム旅行券の補助制度をはじめ、震災復興関連の観光情報をタイムリーに発信することが、観光客誘致において地道ではあるが最善の方法であり、今後とも県内関係者の協力を得ながら注力していきたい。（福岡県香港事務所Facebook <https://www.facebook.com/Fukuoka.HK/>）



【図2】香港旅行雑誌 “Weekend Weekly (新假期)”

*1 2015年訪日外国人消費動向調査（観光庁）によれば、香港人観光客の21.1%が10回以上の訪日経験あり。

*2 香港政府が各国・地域の自然災害、治安等の状況を鑑みて发出。黄色→赤色→黒色の順に警告度が高くなる。



北海道日本香港協会 事務局

「香港ビジネスセミナー」「香港のつどい2016」を開催

北海道日本香港協会は、3月7日(月)に札幌グランドホテルにて「香港ビジネスセミナー」ならびに「香港のつどい2016」を開催しました。

今年のセミナーは、「香港と中国の経済動向」および「食・サービス産業」をテーマに、2名の講師にご講演いただきました。香港に関心をもつ会員企業のほか、輸出や海外出店に関心をもつ食品関連企業・団体から参加者が集まりました。

主催者である香港貿易発展局古田前代表からは、香港貿易発展局の取組み紹介や、香港の最新動向等をご説明いただきました。地方からの発信が盛んになってきている日本や、「一帯一路」政策を進める中国など、香港をとりまく環境の変化を指摘されました。

株式会社一蘭の吉富社長は、自社の沿革や経営理念を軸に、食・サービス産業にかかるビジネスの秘訣を解説なさいました。香港出店では、当初成功が難しいとされていた環境から、独自の経営スタイルで行列のできる人気店にまで成長させ、香港貿易発展局のサクセスストーリーアワードを受賞した逸話を紹介されました。香港進出を考えている企業の方々は、真剣に聞き入っていました。

セミナーに続き、第11回となる「香港のつどい」を開催しました。主催者を代表して当協会の横内会長が挨拶した後、古田前首席代表並びに後任のスーザン・ラム首席代表よりご挨拶をいただきました。中華人民共和国駐札幌総領事館の孫振勇総領事に乾杯のご発声をいただきました。

会場では、乳製品、ワイン、日本酒などのコーナーのほか、キャセイパシフィック航空会社による香港旅行のパンフレットコーナーなど、参加者の皆さまには各ブースを回って楽しんでいただきました。毎年人気のラッキードローでは、多くの企業様より景品をご提供いただき、キャセイパシフィック航空会社よりご提供の「札幌-香港往復航空券」の抽選の際には、場内が大いに盛り上がりました。香港と北海道両関係者の皆さまに親睦を深めていただき、札幌市町田隆敏副市長(当協会副会長)の締めのご



多くの方にご参加いただいた「香港ビジネスセミナー」

挨拶により、盛況のうちに会を終えることができました。

最後に、北海道日本香港協会設立当初から長年にわたり日本と香港の懸け橋として活躍された古田前首席代表に記念品と花束を贈呈しました。

北海道日本香港協会は、今後これまで以上に北海道と香港の文化・経済交流の発展に向けて、努力してまいります。



横内会長より古田前代表(左)並びにスーザン・ラム新代表(中央)をご紹介



宮城日本香港協会事務局 武田 功

2016年度通常総会&記念セミナー、懇親会を開催

5月25日(水)パレスへいあん5階「エトワールホール」において、2016年度通常総会&記念セミナーを開催致しました。小野寺会長挨拶のあと、創立10周年を記念して事務局を務めるJTB東北、そして協会活動の中心的な役割を果たしてきたビジネス部会・ユウユウ部会・女性部会の各部長への感謝状の贈呈があり、その後議事に入り、第1号議案「2015年度の事業報告(案)並びに収支決算(案)及び会計監査について」、第2号議案「2016年度事業計画(案)及び収支予算(案)について」について満場一致で可決・承認されました。

続く記念セミナーにおいては、仙台放送ニュービジネス開発局企画制作部プロデューサー・監督の太田茂氏による「香港フィルマートを通じての海外展開」と題した講演がありました。同氏は、仙台放送に長年勤務され、報道部記者、制作部ディレクターを経て2008年から企画制作部プロデューサーを務められています。今までに手掛けられた「川島隆太教授のテレビいきいき脳体操」や、映画「僕がジョンと呼ばれるまで」、情報番組「仙臺いろは」などを紹介するとともに、香港フィルマートを利用した様々なコンテンツの海外展開の模様を紹介されました。

終了後、隣の「ボヌールホール」に移動しての懇親会、大坪代表理事の挨拶のあと、所用のため出席できなかった村井宮城県知事及び奥山仙台市長に代わって出席された、県経済商工観光部長の吉田祐幸氏、仙台市産業政策部産業振興課長の白岩靖文氏、そして香港貿易発展局東京事務所長のジョイス・チャン氏が登壇、香港の素晴らしさ、香港との交流の重要性についての話がありました。みやぎおかみ会会長の四竈明子様乾杯で幕を開け、懇談となりましたが、笑いを誘ったのはアトラク

ションの「正調どじょう掬い踊り」です。二人の生徒さんを従えて登壇、自称「氷川きよし」と呼ばれる斎藤政昭さん、どじょう掬い踊りでは師範の腕前、豆しばりの結び方、こしかごの付け方、そして一文銭の鼻への付け方や腰の使い方など、生徒さんとのやり取りがとても滑稽で、会場は大きな笑いでいっぱいになりました。

広東語教室で懇談会を開催

2015年度の広東語教室も、3月22日(火)の教室で終了しました。7月から3月までの9カ月間でしたが、あっという間に終わってしまったようです。その間、香港で実際に体験した教室メンバーの報告あり、荒川先生宅のクリスマスパーティーありと、素晴らしい教室となりました。そして最後は、3月29日、新しく仙台駅にオープンしたエスパル東館3階の台湾料理専門店「鼎泰豊」にてのお別れ懇談会です。教室のメンバーに加え、2016年度の教室に参加希望のある2人のメンバーも参加し、荒川先生によるホワイトボードを使った教室さながらのメニュー解説など、時間の経つのも忘れるほど賑やかな懇談となりました。今年度の教室が楽しみです。



広東語教室懇談会参加者の皆さん



会長・来賓の皆さま(通常総会&記念セミナー、懇親会)

OKINAWA

沖縄日本香港協会



沖縄日本香港協会 事務局

香港からの観光客の動向と今後の展望

沖縄県の統計によりますと、平成27年度の沖縄県の入域観光客数は793万6,300人で対前年度比76万6,400人、率にして10.7%の増加となりました。沖縄県の入域観光客数は3年連続で、国内客・海外ともに過去最高を更新、800万人に届く勢いとなっています。その背景として、円安傾向に伴う訪日旅行需要の増加、海外航空路線の拡充・クルーズ船の寄港回数の増加による外国人観光客の大幅増加、国内外におけるプロモーション活動があるとされています。

平成27年度の外国客は167万300人で前年比68万4,300人、率にして69.4%の増加となっており過去最高となりました。香港からの観光客数は20万1,000人と前年度比で66.9%増加、初の20万人台となりました。

今回は、香港から日本向けの旅行会社最大手のEGLツアーズの沖縄現地法人である(株)EGL OKINAWA代表取締役の小島博子氏にインタビューし香港からの観光客の動向と今後の展望についてお聞きしました。

—EGLツアーの概況についてお聞かせください。

EGLツアーズは創立30周年を迎え、(株)EGL OKINAWAは設立1周年を迎えました。

EGLツアーズ全体では香港から日本に年間16万人ほどのお客様にご利用頂き、主に東京・大阪・北海道・沖縄の旅行商品を提供していますが、そのうち約3万人に沖縄を旅行先として選んで頂いています。

創業社長の袁文英氏は、日本語ツアーガイドから創業し、日本の観光地としての魅力を熟知しており、これが香港の方への魅力的な商品開発・商品提供がおこなえる原動力となっていると思います。

—現在の主力商品をお聞かせください。

沖縄の商品では、4泊5日のツアーを多くご利用いただいています。リゾートホテル2泊那覇市内2泊で主な観光施設をバスを利用して移動するツアーです。現在、沖縄では観光バスを6台契約しています。

香港からの観光客は、インターネット等を利用して予



(株)EGL OKINAWA 代表取締役小島博子氏

約した若い個人旅行者も増えていますが、私共が提供する団体旅行は、比較的年齢が高い方または家族連れのお客様に多くご利用いただいています。団体旅行に参加される方は、「安心・安全」と「訪問先や食事を選ぶ面倒がない利便性」から選ばれていると考えています。



大型クルーズ船により観光客数は大きく増えている

沖縄の美しい海や自然も魅力の1つですが、香港から2時間で行ける一番近い日本として選ばれる方も多く考えています。香港の方がイメージされる「日本」に触れることができるドラッグストアや大型商業施設での日本製品のショッピングや日本食などもツアーに入れています。意外ですが「沖縄そばよりもラーメンがいい」とおっしゃるお客様も多いです。

—沖縄がより良い観光地として、取り組むべき点があればお聞かせください。

那覇空港の国際線ターミナルはすでに手狭になっており、ボーディングブリッジを利用できないことも多く、雨天の際は、沖縄に到着した時点で雨に濡れるお客様もいらっしゃいます。空港は沖縄の玄関口ですので、空港施設の改善は必要と考えます。

沖縄も新しいホテルが増えましたが、ホテルも必要な人材が十分に確保できていないと聞いており今後、価格に見合うサービスの提供をしていただけるのか心配されます。

また香港のお客様は、食に関する関心が高く、沖縄でもより質の高い「食」を提供する場所を増やしていくことも重要だと思います。

—今後の展開をお聞かせください。

離島、特に石垣・宮古の商品とプライダルの旅行商品にも力を入れていきたいと考えています。リーガルウェディングとして結婚証明書の発行に協力していただける市町村もごぞいますし、美しい海でのリゾートウェディングは、まだ伸びると考えています。EGLでは香港にプライダルサロンを開設して、年間300組のうち約8割が沖縄を選んでくださっています。今後もより多くの方に沖縄でのリゾートウェディングをご利用頂きたいと思っています。



観光客が多く立ち寄る国際通り



広島日本香港協会事務局 二神 朋子

広島日本香港協会について

◆広島日本香港協会設立5周年

広島日本香港協会は、県内企業の事業拡大と国際競争力の向上を図るため、香港貿易発展局と連携し、香港・中国をはじめ、成長著しいアジア地域との取引や、業務提携などの企業活動を支援することを目的とし、国内87団体の協会として、平成22年8月10日設立されました。丸5年を経過し、現在の会員数は74の法人・個人となっています。

この間毎年、香港及び中国本土に関する情報提供、香港で行われる「香港フォーラム」への参加のほか、次のような取組みを行い、広島と香港等との経済交流を図ってきました。

平成22年度：香港貿易発展局の企業無料相談会、セミナー（広島市、福山市）

23年度：環境関連・食品・旅行業の香港企業を招聘した商談会、香港フードエキスポへの出展協力。この年から、春節意見交換会を開催（広島）

24年度：インバウンドセミナー、食品セミナー（広島市）、香港・アジアセミナー（福山市）

25年度：香港・アジアセミナー（東広島市、広島市）

26年度：香港ビジネス法務相談会等（広島市）、広島HONGKONGキャラバン「初めての海外取引セミナー」（呉市、尾道市）

◆広島と香港

広島と香港の間の人々の交流については、最近さらに活発になっています。

香港から広島県への観光客は、チャーター便などの利用で、平成26年までの5年間で約10倍になるなど着実に増加を見せています。こうした中、昨年（平成27年）8月から直行便の就航が相次ぎ、香港ドラゴン航空が週

2便、さらに10月には香港エクスプレスが週2便、今年（平成28年）1月には1便増便の週3便となり、現在週5便の直行便が運行されています。

搭乗者数は今年3月には6,000人を超え、搭乗率も80%前後と好調に推移しています。

広島県が行ったアンケートによると、搭乗者の内訳は香港からの観光客がほとんどで、50～60歳代の団体客のほか20～40歳代の個人客も多くなっています。行き先は、宮島や平和公園、大久野島、西条、鞆の浦など県内各地のほか、九州、関西、中国、四国などとなっています。リピーターも多く、訪日回数6回目以上の方が61%もいました。

これらにより、香港からの広島県内宿泊者数は、平成28年2月には5,300人と、1年前に比べ約8.4倍に増えています。広島県においても、外国人観光客の増加のため情報発信する重点地域の一つを香港とし、広島の魅力を伝えていくことにしています。

このように広島と香港の交流は、特に近年の香港からの来広者増加という点でも、ますます強まっているといえます。

◆今後の活動

広島県は、「日本の縮図」と言われているように、自然豊かな瀬戸内海や中国山地などがあり、空港から1時間程のアクセスでマリンスポーツもウィンタースポーツも楽しめるなど魅力にあふれ、宮島など多くの文化にふれることもできます。牡蠣や新鮮な魚、柑橘類など美味しい食材も豊富で、お好み焼きをはじめとしたグルメも全てを楽しむことができます。

広島日本香港協会は、こうした広島の魅力を多くの香港の皆さんに知っていただくために情報発信し、観光という点からも香港と広島の交流をさらに活発にしたいと考えており、広島と香港の経済交流、人的交流が今後さらに盛んになるよう尽力して参ります。



香港からの航空機



瀬戸内海の風景



新潟日本香港協会 事務局

平成28年度通常総会・講演会・懇親会

新潟日本香港協会では、5月12日(木)15:30から平成28年度通常総会・特別講演会・懇親会をホテルオークラ新潟にて開催しました。当日は、約40名の会員や各種団体の皆様が出席しました。また、総会では、来賓としてセミナー講師をも務める香港貿易発展局の桑田靖章氏と東京事務所次長の門田弘蔵氏にご出席いただきました。総会は吉田会長の挨拶で開会し、田中事務局長の議事進行により、平成27年度事業報告・収支決算報告および監査報告、平成28年度事業計画・収支予算の4議案と役員人事報告について満場一致で可決・承認されました。続いて特別講演会では、お2人の講師をお招きしご講演いただきました。

第一部では、香港で年間30以上の国際展示会を開催する香港貿易発展局より、マーケティング&ビジネスマッチングアシスタントの桑田靖章氏に「香港貿易発展局主催の展示会について」と題してご講演いただきました。桑田氏からは、香港貿易発展局主催の展示会は、調達意向・購買意欲の強いバイヤーが集結するB2B“Trade Fair”が主体であることが強みであり、中でも、日本のコンテンツを利用した販売・マーケティングで100万人もの来場者を集める“香港ブックフェア”や、アジア最大級の食品見本市として注目を集める“香港フード・エキスポ”など、新潟が持っている素材を世界へアピールできるイベントが数多く香港で開催されていること等についてお話いただきました。

続いて第二部では、新潟県内企業の海外進出の支援に力を入れている株式会社亞瑠・代表取締役の船木亜瑠氏より「新潟燕三条のものづくりを香港から世界へ発信」と題してご講演いただきました。ご自身の中国への留学及び勤務時における豊富な経験や知識を織り交ぜながら、自らが支援を行った県内の居酒屋チェーンの香港進出における成功事例など様々なお話を聞かせていただきました。講演中は参加された会場の皆様も熱心に耳を傾けておられました。



通常総会の様子



懇親会の様子

総会と特別講演会の後は会場を移し、吉田会長の開会挨拶により懇親会を開催しました。来賓挨拶では、香港貿易発展局東京事務所次長の門田弘蔵氏と新潟県知事政策局国際課国際企画監の田中昌直氏よりご挨拶をいただきました。そして、乾杯酒は新潟を代表する日本酒“麒麟山”を手に、麒麟山酒造株式会社代表取締役会長であり、当協会の理事をも務める齋藤吉平氏の乾杯のご発声で幕を開け、懇談となりました。懇談中は、名刺交換をされる方や香港を軸とした今後の海外活動の展開について意見交換される方などおられ、大変に盛り上がりました。楽しい時間はあっという間に過ぎ、当協会の理事である富山栄子氏による中締めのご挨拶で幕を閉じました。なお、この場をお借りして、お忙しい中、当協会の総会にご参加いただいた皆様、また、大変有益なご講演をいただいた桑田氏および船木氏には、改めて厚く御礼を申し上げます。



懇親会の主役を務めた吉田会長、富山理事、齋藤理事（左から）



高知日本香港協会理事 鍵山 武男



祝賀パーティー参加者

高知日本香港協会設立

さる6月1日、高知市鷹匠町、三翠園に於いて、日本香港協会全国連合会の第10番目となる協会が、四国の高知に誕生しました。四国では初めてのことで、将来は、四国4県への発展的展開も期待されています。

午後3時からの総会には、香港貿易発展局スーザン・ラム日本首席代表を始め、地元の副知事や県会議員等多数が来賓として招かれる中、高知ニュービジネス協議会会長等々の重責を担う、地元の重鎮、小川雅弘氏が会長として就任しました。

今後、協会設立を契機に、高知と香港の交流を深め、また従来からの数々のビジネスを一層進展させることを会則や活動方針に盛り込むことが全会一致で承認されました。当日の出席者は67名。

総会終了後は、香港貿易発展局大阪事務所の計らいで、設立記念講演が開催されました。記念講演として、東京のNPO法人日本香港協会理事でもあるアルフレッド張氏が、「幸せを運び、香港と高知県との懸け橋になれ」と題して講演すると、参加者は香港に親しみを覚え、今後の交流に大きな期待を抱くことができました。尚、張氏は高知新港建設計画の際、当時の橋本知事に港湾建設に関してアドバイスするとともに、アジアの主要港を案内したことがあり、高知の港湾の発展に寄与された方です。

地元からは、すでに香港とのビジネスを展開している2名の方、株式会社こうち暮らしの楽校の松田高政代表取締役、土佐御苑の横山公大専務取締役が現状の取り組み状況について講演しました。

講演の最後は、「日本香港協会と香港ビジネス協会世界連盟について」と題して、香港貿易発展局大阪事務所長伊東正裕氏が今後のグローバル展開の中で大きなビジネスチャンスの機会があることを示されました。

午後6時からは、多くの来賓を招いて祝賀パーティー

が和やかに開催されました。

設立の経緯については、2年前の2014年4月頃から、高知の有志が日本香港協会設立に関して意気投合し、関係者と打ち合わせを重ねていたところ、西日本地区の窓口の香港貿易発展局大阪事務所が度々、高知県庁へも来られていたことから、気運がたかまり、昨年2月にNPO法人日本香港協会の原田理事長あてに高知に日本香港協会を設立したい旨の願い書を提出したことはじまります。その後、昨年8月には、香港貿易発展局古田前首席代表を招いて、尾崎知事等に面談していただき、夕刻には土佐御苑にて高知日本香港協会の設立準備懇親会を開催し29名が参加しました。

高知日本香港協会の今後の運営に当たっては、仲間の各地の協会との交流を通じて、情報交換を行い、相互に香港との交流やビジネスを進展させていきたいと考えますので、どうか宜しくお願いします。また、高知県を中心に四国4県の仲間とも連携して香港との友好的な関係を進展させて行きます。さらに、高知県は地元の一次産業（農林業）を基本に、香港に世界に喜ばれる産物や加工品を今まで以上に輸出できるよう工夫と努力を重ねていきます。



左から鍵山理事・ラム首席代表・小川会長・NPO原田理事長・アルフレッド張氏



©2014 Pokémon. ©1995-2014 Nintendo/Creatures Inc./GAME FREAK inc.
 ポケットモンスター・ポケモン・Pokémonは任天堂・クリエーション・ゲームフリークの登録商標です。

「ポケモンホテルアドベンチャー～壺と10の謎～」宿泊プラン

デラックスルーム

54㎡

3名様1室1泊

¥71,000～

デラックススイート

116㎡

3名様1室1泊

¥164,000～



ザ・ペニンシュラ東京
 公式ホームページ
peninsula.com/tokyo/jp

人気ゲーム“ポケットモンスター（ポケモン）”をテーマにした「ポケモンホテルアドベンチャー～壺と10の謎～」をお楽しみいただける宿泊者限定アクティビティは、都内ホテルでは初の実施となり「ポケモンホテルアドベンチャー～壺と10の謎～」宿泊プランを利用してご宿泊される5歳以上のお子様を対象となります。

ホテル内10ヶ所に設置されるタブレット端末に入ったアニメーション内のヒントを元にポケモン探偵になりきって事件の謎を解いていただきます。終了後には、本宿泊者限定アクティビティオリジナルのザ・ペニンシュラホテルズのアイコン的存在であるスタッフ“ページボーイ（ガール）”の白い制服を着たページボーイ・ピカチュウのぬいぐるみをプレゼントいたします。

プラン内容

- ・「ポケモンホテルアドベンチャー～壺と10の謎～」宿泊者限定アクティビティへの参加
- ・ポケモンなりきりキャップ（非売品）2個のプレゼント
- ・ページボーイ・ピカチュウのぬいぐるみ（非売品）2体のプレゼント
- ・レストランまたはルームサービスでのアメリカンブレイクファスト
- ・12歳以下のお様のレストランまたはルームサービスでのお食事（「京都 つる家」を除く）
- ・エキストラベッド（3名様でご利用の場合）
- ・有線・無線高速インターネット接続
- ・フィットネスセンターとスイミングプールのご利用
- ・新聞デリバリー

*料金には別途8%の消費税と15%のサービス料、お一人様ご1泊につき東京都宿泊税200円が加算されます。*本宿泊プランでご利用できるお部屋数には限りがございます。*本宿泊プランは予告無しに中止または、内容が変更になる可能性がございます。*ご予約・詳細につきましては、ザ・ペニンシュラ東京宿泊予約課 Tel: 03 6270 2288またはe-mail: reservationptk@peninsula.comまでお問い合わせください。

THE PENINSULA

T O K Y O

ザ・ペニンシュラ東京 〒100-0006 東京都千代田区有楽町1-8-1

TEL: 03 6270 2888 FAX: 03 6270 2000 E-MAIL: PTK@PENINSULA.COM WEBSITE: PENINSULA.COM

HONG KONG • SHANGHAI • BEIJING • TOKYO • NEW YORK • CHICAGO • BEVERLY HILLS • PARIS • BANGKOK • MANILA